

# 一般質問

定例会では、提案された諸議案に関係なく、議員自身が議長に通告し、市長及び関係理事者に質問する日（一般質問日）を設けています。今定例会は、9月17日、18日に10人の議員が活発な質問を展開しました。ここにその一部を掲載します。詳細は、市議会ホームページでご覧いただけますので、是非活用ください。

## 会派名簿

**公明党 (4名)**  
大北かずすけ・亀甲義明  
森下みや子・成谷文彦

**日本共産党 (2名)**  
竹森 衛・西川正克

**至誠会 (2名)**  
小川和俊・奥田 寛

**真政会 (3名)**  
杉井康夫・竹田きよし  
榎本利明

**政志会 (2名)**  
たけだやすひこ・松木雅徳

**自由民主党 (2名)**  
細川佳秀・奥田英人

**榎原未来 (3名)**  
宇佐美孝二・廣井一隆  
大保由香子

**いずれの会派にも所属しない議員 (5名)**  
高橋圭一・河合 正  
榎尾幸雄・松尾高英  
水本ひでこ  
(平成26年9月17日現在)

## 交通政策

一般質問  
松尾 高英  
(いずれの会派にも所属しない議員)

**問** 近年、市長は施政方針で低炭素なまちづくりを掲げている。人口減少時代における低炭素都市づくり、またコンパクトシティを進める上で、公共交通の意義についての考えを聞きたい。

**答** 低炭素社会の実現に向け、本市では、特に県立医科大学を中心とした新しいまちづくりをコンパクトシティと位置づけ、健康・医療・環境・省エネ対策など連携したまちづくりを進めようとしている。実現に向け、積極的なまちづくりなどの地域戦略と一体で

持続可能な地域公共交通ネットワークサービスの形成を図ることが重要と考える。

**問** 県では、昨年の7月に全国で初となる奈良県公共交通条例が施行され、2月から、奈良県地域交通改善協議会や、奈良県地域交通改善協議会幹事会が開催されていると聞いている。9月2日に第6回目の改善協議会が開催されたようだが協議会の現状と検討内容を聞きたい。

**答** 路線ごとに、関係自治体の長により、存続や廃止、縮減等に関する協議が行われてきた。25路線45系統については、平成26年10月以降、合理化等により廃止される路線が10路線ある。本市は中南和の拠点都市という役割から、県・関連市町村と協力し、現段階においては、路線沿いの市町村と協力して生活交通路線を

維持することで決めている。

**問** 市中の循環バスのうち、耳成循環の現状は。

**答** 赤字路線であり、事業者から見直したいという申し入れがあったが、耳成高校跡地に、県の総合庁舎ができるため、路線維持をお願いした。結果としては、平成26年10月より減便される。

**問** 今後、白樫循環や菖蒲町を走る線も、収支悪化が予測でき、廃止路線が増える恐れもある中、公共交通の利用促進、路線維持への考えは。

**答** 既存の生活交通の維持に向け努力し、新しい公共交通サービスのあり方も描きながら、公共交通の空白の解消に努力したい。

**問** 本市のコミュニティバスの収支率は30%台だが、生駒市光陽台線や、神戸市東灘区では、地元住民が熱心に公共交通利

用促進に取り組み、高い収支率を実現している。行政が率先して、自治会を巻き込み、公共交通の利用促進並びに維持確保に努めないといけないと思うが。

**答** バス事業者の営業努力も必要だが、利用しなければ路線がなくなる時代も遠くない。難しい課題だが模索し努力したい。

**問** 耳成高校跡の県総合庁舎はどういったものになり、そこで働く職員は何名ぐらいか。また、そこには交通のターミナル機能も設置されると聞くが把握しているのか。

**答** 高田・桜井・吉野の県税事務所が移転統合され中南和県税事務所に、桜井・宇陀の一部が移転統合され中和土木事務所に、県庁内の地域振興部南部東部振興課や中和福祉事務所も移転され来年1月か

ら業務が開始。葛城・桜井の保健所が移転統合され中和保健所に、県農林部農林振興課の一部農林振興事務所なども移転され来年2月から業務開始される。300名強の職員が配置される計画で、総合庁舎の玄関付近にバスのスペースを確保すると聞いている。

**問** イオンモールと隣接する新堂町の土地が地区計画において編入されたが、その後の進展は。また、前回の公共交通の質問時に、イオンモール付近へのハブ化という言葉が出ていたが、どのようなイメージを持っているのか。

**答** 4月27日付で開発予定事業者と農住組合及び地権者とで土地の賃貸借に関する予約契約が締結され、現在、開発予定事業者が土地利用計画の作成を進めている。この区域内にバスターミナルを設ける